

筑波大学平家部会論集(一〇十二) 総目録

○第一集 平成元年3月

『平治保元平家之物語』

——『普通唱導集』所載一句の吟味——

平家歌人と万葉集・万葉語

俊成卿女家集論——巻頭第一首の詞書を考える——

『通盛』論——その変容に関する一試論——

世阿弥自筆本「江口」本文考

——料紙の継ぎ目と改行とをめぐって——

犬井 善壽

千草 聡

永田 初枝

徐 禎完

飯塚恵理人

○第二集 平成二年8月

仁和寺と平氏——平家歌壇形成の一面——

『平家物語』と『保元物語』『平治物語』との関連

——共通記事についての素材の検討——

俊成卿女家集論

——『千五百番百首』と

『衛門の督の殿への百首』との比較——

『求塚』試解——その変遷過程の一端をめぐって——

状と冊——世阿弥自筆能本の体裁について——

平経正和歌歌番号対照表

永田 初枝

徐 禎完

飯塚恵理人

犬井 善壽

○第三集 平成四年3月

「ナサケハ人ノタメナラズ」考

——延慶本『平家物語』所載歌一首の典拠と変容——

『平家物語』の女人「出家」について

——横笛説話の「愛」をめぐって——

『朗詠集』に見えない朗詠曲——「朗詠譜本」の十曲——

守覚法親王略年譜——和歌活動の面を中心に——

俊成卿女家集論——「千五百番百首」の配列について——

李 鮮瑛

青柳 隆志

千草 聡

永田 初枝

○第四集 平成六年7月

朗詠における禁忌——「雲」の朗詠をめぐって——

『平家物語』の女人造型と「恥」——祇王を中心に——

『曾我物語』の一万箱王兄弟

——幼年期の二人の描かれ方の諸本間の相違——

『宗祇終焉記』小考

『六花和歌集』所載西行和歌歌番号対照表

小井土守敏

崔 忠熙

犬井 善壽

○第五集 平成七年11月

『北院御室御集』伝本考

——宮内庁書陵部蔵『守覚法親王集』を中心に——

『金槐和歌集』貞享本系統本文考

——所載歌と歌順の吟味——

宗尊親王『文心三百首』伝本分類私考

大磯の虎をめぐる十郎祐成の描かれ方

——『曾我物語』諸本間に見られる相違——

千草 聡

犬井 善壽

佐藤 智広

小井土守敏

『武道伝来記』の二重構造

——「平家」素材の利用方法から——

金 栄哲

○第六集

曾我十郎五郎の分担

平成九年6月

——「さはがぬ男」と「たまらぬ男」——

小井土守敏

平貞文の文芸活動について——その歌の特質を中心に——

金沢 朱美

西行の水の歌の表現

斐 慶娥

『金槐和歌集』定家本系統本文考

——四系統分類と定家本系統の系列分類——

大井 善壽

宗尊親王『文応三百首』の流伝について

——『井蛙抄』所載本文を手懸りとして——

佐藤 智広

『本朝二十不孝』考——創作意図の二元性を中心に——

鄭 澄

○第七集

『保元物語』本文形成考

平成十一年3月

——為朝と鬼の末裔との邂逅場面をめぐる——

佐藤 智広

仮名本『曾我物語』における梶原景季について

小井土守敏

『北院御室御集』と『御室五十首』『正治初度百首』

各守覚歌との関連性をめぐって

千草 聡

『久安百首』部類本から『千載和歌集』へ

——編集方針の継承と展開——

山本 晶子

按粹諸系統『金槐和歌集』歌番号対照表

——柳宮直槐本系統賀茂真淵評語本との比較——

犬井 善壽

○第八集

伊勢物語古注釈の方法

平成十二年12月

——各小段の「女」の実名を中心に——

飯塚恵理人

謡曲〈忠度〉論——「文武二道」の武人シテ忠度の造型——

岩城賢太郎

馬場信意著『曾我物語評判』の序文に関する覚え書き

小井土守敏

大分県立図書館蔵「碩田叢史」所収

『金槐和歌集佳調抜』の本文について

犬井 善壽

○第九集

元性法印の和歌活動について

平成十四年6月

『御裳濯河歌合』十一番右歌本文小考

斐 慶娥

和歌における「いとふ(厭ふ)」

——『万葉集』から『新古今集』入集西行・慈円歌へ——

児島 由記

『閑月和歌集』所載実朝歌一首の本文

——『金槐和歌集』の本文流伝との関連において——

犬井 善壽

小督物語——時代背景に基づく女人造型の考察——

李 鮮瑛

「弥三郎成綱」が語るもの

——仮名本『曾我物語』に見る頼朝の近臣——

小井土守敏

謡曲〈知章〉における「卒都婆」と「波」と

——久次本を中心に——

岩城賢太郎

○第十集

〈三種神器〉神話の生成と『平家物語』

平成十六年1月

真名本訓読本系統『曾我物語』本文考

内田 康

——鶴舞本系列諸本の位相——

小井土守敏

『宇治拾遺物語』所収和歌の本文流伝

——「年を経て頭の雪は積もれども」歌の検討—— 小野のぞみ
小侍従の歌と歌林苑 山本 晶子

延宝二年版行本『西行法師家集』の諸本について

斐 慶娥

『金槐和歌集』伝本分類私考

犬井 善壽

謡曲〈朝長〉の二つの「語り」

岩城賢太郎

——青墓長者の「語り」から朝長霊の「語り」へ——

○第十一集

平成十七年12月

修羅能と『源氏物語』のことは

——源氏寄合を手掛かりとして修羅能の展開を考える—— 岩城賢太郎

日本大学蔵真名本訓読本『曾我物語』に関するノート

小井土守敏

『宇治拾遺物語』における和歌説話の配列

小野のぞみ

——第四百四十九・百五十・百五十一話の場合——

『西行法師家集』本文考

——諸伝本の大別グループ分けに関わる

所載歌と歌順の吟味——

斐 慶娥

『金槐和歌集』伝本書目

犬井 善壽

○第十二集

平成十九年3月

鶴の啼く夜——『平家物語』頼政説話に関する一考察——

内田 康

仮名本『曾我物語』の方法

——「惟喬・惟仁の位あらそひの事」を通して——

小井土守敏

平貞文歌「ありはてぬ」ならびに存疑歌「花の雫に」小考

金沢 朱美

『西行法師家集』諸伝本の種々の奥書識語について

斐 慶娥

飛鳥井雅有の奈良・伊勢逍遙

——『仏道の記』の作品化について——

佐藤 智広

心敬と歌道・仏道修行と「禪」

林 玉 壽

『徒然草』に描かれた「法師」

中田 由記

『宇治拾遺物語』第五十一話

「一条撰政歌の事」の和歌について

小野のぞみ

「行疫流行神」考

船城 梓

「伎楽」追跡考

徐 禎完

——『妓楽龍笛譜』小考——

『平家物語』から謡曲、そして古浄瑠璃へ

——「木曾最期」を語った古浄瑠璃の様相——

岩城賢太郎

金春朋之助安治追跡——幕末・明治の金春八左衛門家——

飯塚恵理人

『平家物語』における「無常」の表出方法

——源頼政の死と平忠度の死との類似と相違——

犬井 善壽